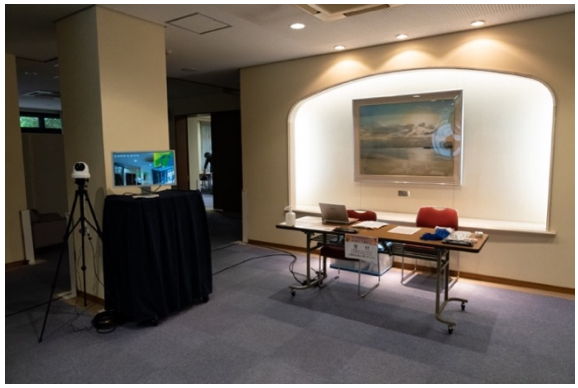
日本脊椎関節炎学会

第 30 回学術集会　開催報告

令和 2 年/2020 年 9 月 26 日土曜日、日本脊椎関節炎学会第 30 回学術集会を開催しました。
今回は、COVID-19 の影響のため web 上で行いました。

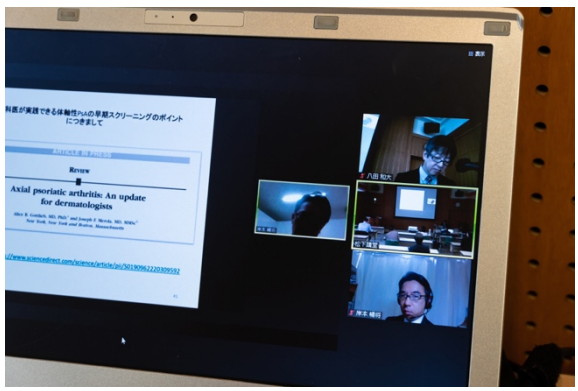
テーマは「全年齢の脊椎関節炎を全身から考える」

SpA 関連の話題 2020 Update、5 つのセミナー・シンポジウム、23 の一般演題発表、共同研究成果発表、七川アッヴィ賞受賞講演と様々な企画をディスカッションベースで行いました。



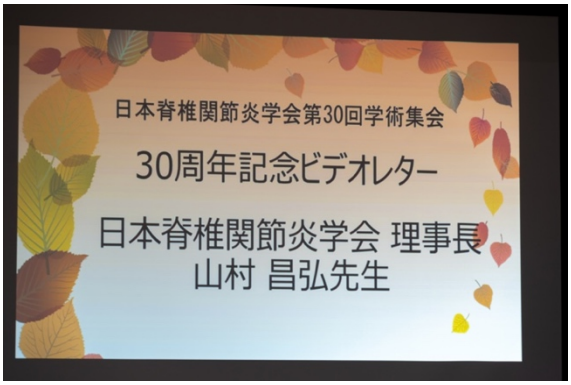
来場できる役務の先生のみ、京都の配信会場に来て頂きました。サーモで体温測って配信会場に入館します。

開会式
カメラに向かって、視聴頂く皆様にご挨拶します。



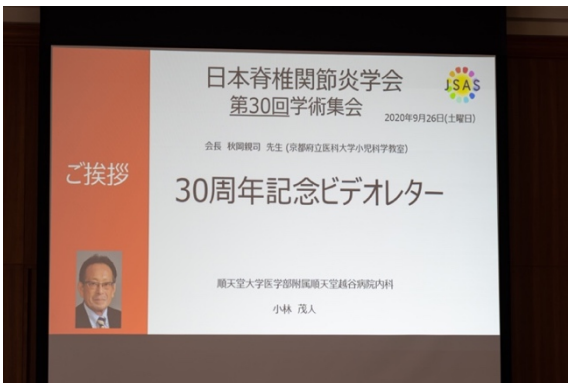
トップバッターは岸本暢将先生の「SpA 関連の話題 2020 Update」、座長は八田和大先生です。

ノートパソコンで視聴しています。



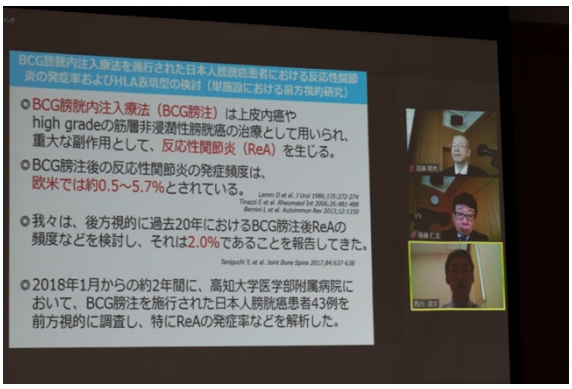
第 30 回の記念大会でしたので、現理事長、前理事長始め、過去に学術集会を開催された数名の先生に記念ビデオレターを頂きました。

前理事長の小林茂人先生のビデオレターは本学会の歴史が年表入りで説明されていました。



一般演題は 10 日前からホームページ上で動画を配信、質問を事前に受付、当日は 1min. talk でサマリーをお話し頂いた上で、質疑応答を主に座長と演者に行って頂きました（左写真はトップバッターの辻成佳先生です）。

演者や座長の先生がリモート参加の場合は 2 元・3 元中継です（右写真は座長の首藤敏秀先生と後藤仁志先生、演者の西川浩文先生です）。



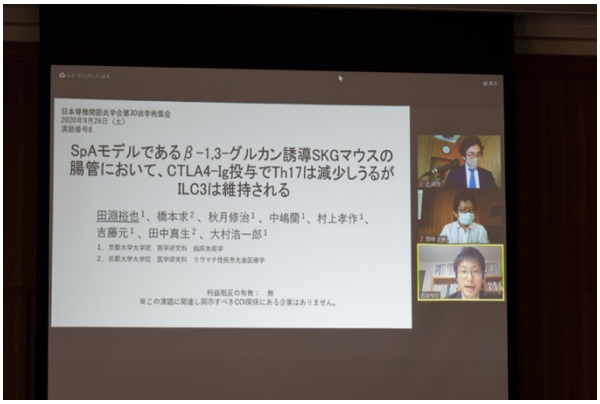
スポンサードセミナーにはリウマチ内科、整形外科、皮膚科、眼科、消化器内科、小児科の計 10 名の先生にご講演頂きました（左写真は座長の西川憲弘先生と演者の岡田正人先生です）。

今年の七川アッヴィ賞は、名古屋市立大学皮膚科の森田明理先生が受賞されました。

各セッションの合間に、「診療 1 分メモ」という形で豆知識を共有しました（仙腸関節のレントゲン読影について野崎太希先生の解説です）。

学術集会はノンストップで進みます。役務の先生は三密を避けて、サブ会場で休憩です。

★今年は、事前の動画視聴における投票と質疑に関する座長の評価の合計で、一般演題の中から以下の３題の優秀演題賞を選びました。



「SpA モデルであるβ-1,3-グルカン誘導 SKG マウスの腸管において CTLA4-Ig 投与で Th17 は減少しうるが ILC3 は維持される」
田淵裕也先生

「仙腸関節単純レントゲンの読影に関する考察」
多田久里守先生

「当院における SAPHO 症候群 30 例の臨床症状とサイトカインとの関係について」
吉川卓宏先生

益々の研究のご発展をお祈り申し上げます。

閉会式
朝９時から夜７時までの長丁場の１日でした。次回学術集会長の亀田秀人先生にバトンタッチしました。

次回は東京、2021 年９月 11 日と 12 日の予定です。

第 30 回日本脊椎関節炎学会学術集会は皆様のご支援のもと、コロナ禍を乗り越え、無事終了致しました。開催に際しご尽力賜りました理事、評議員、会員の皆様、座長、演者の先生、共催頂きました企業様、学術集会を運営頂いたあゆみコーポレーション様、お支え頂きました日本脊椎関節炎学会事務局に深く御礼申し上げます。アカデミアにとり未曾有かつ不透明な状況が続きますが、日本脊椎関節炎学会への引き続きのご支援を宜しくお願いします。